

## 自然界と人間界の違い

小学六年生の半日入学が終わってから、保護者対象に入学説明会を開催しました。その中で、多治見警察署生活安全課のT氏の話聞きました。東濃管内においても、中学生が被害に遭うネット関係のトラブルや犯罪は確実に起きています。被害者となった若者と接している彼の話は、「便利」の陰に隠れている「危険性」をしみじみと感じさせるものでした。すると、私の中に、ある方の言葉が急に蘇ってきました。

ずいぶん昔のことです。登校途中の女子中学生たちがスズメのヒナを拾いました。捕まえられるぐらいですから、弱っていたのか巣から落ちたのかのどちらかでしょう。「かわいそう」ということで、彼女たちは学校に連れてきました。

見てみると、普通のスズメよりふわっとしていて、明らかに巣立ち前でした。鳴きませんし、逃げもしません。心細そうに震えているように見えました。どうしてよいかわからなかった。私は知り合いの「日本野鳥の会」の会員である方に電話して尋ねてみました。世話の仕方を教えてもらえるものとはばかり思っていたところ、意外な言葉が返ってきました。

「なぜ拾ってくるんですか。そのヒナはそういう運命なんです。『かわいそう』なんて思うのは人間だけであって、自然界では（死んでいくヒナがいるのは）当たり前前のことです。」

予想外の言葉に、私はどう答えてよいかわかりませんでした。人間より小さな生き物でも、人間よりはるかに厳しい条件の中で生きているのだと思いきらされました。

しかし、そのままにしておくのは忍び難く、エサになりそうなものを置いたり、水を飲ませようとしてみたりしました。温めてやればなんとかなるかも、と思いました。が、やはりだめでした。人間が親鳥の代わりに育てることは、自然界では許されないようです。ヒナは何も口にせず、やがて静かに死にました。人間が生きているのは自然界ではありません。人間界です。自然界では犠牲になるヒナがいることは当たり前前のことであっても、人間界では犠牲になる子どもがいることは絶対あつてはなりません。皆さんはスズメではないのです。一人でもつらい思いや悲しい思いをする子がいてはいけません。

中学生のみなさん、ネットを介して多くの人との出会いを求めたり楽しんだりするでしょうが、「守ってもらおう」という意識ではなく、「自分で自分を守る」という意識でいてください。その上で、私たちが皆さんを守りますから。

(二月四日 記)



施設を見学する6年生